

2008年8月28日

2008年度工学部教育企画委員会FD部会

授業公開に対するアンケート回答結果について

平成20年6月16日(月)から27日(金)の期間に行いました授業公開に対するアンケート調査にご協力いただき、大変有難うございました。お蔭様で多数の教員から回答が寄せられましたので、授業を参観した感想や意見について学内に向けて公開いたします。工学部教育企画委員会FD部会では、これらの感想や意見を参考に今後の授業公開のあり方やアンケートの調査方法について審議することにしておりますので、引き続きご協力いただきたくお願いいたします。

【アンケート(b) の質問内容】

質問1 授業を参観して、ご自身の授業で改善しようと思ったことがあればお書きください。

質問2 授業参観の実施に対して感想や意見を自由にお書きください。

【質問1に対する全回答】

(機械工学科)

- 復習を取り入れて学生の記憶を確かなものにしてゆきたい。
- 学生の反応を確かめながら授業を進めたい。
- 特になし。
- ホワイトボードの端にタイトルや演習問題を書く部分を消さずに残していること、青字を使う方が見やすいこと、等を今後参考にする。

(電気電子システム工学科)

- 自分の授業は、板書を中心とした授業であり板書の量が多い方である。他の教員の板書の量を見ると、1/2～2/3程度であり説明にも余裕があり、学生の反応を見ながら授業が進められていた。配布資料などの併用でもう少し板書を減らし、学生の反応を確認しながら授業を進行することが学生の授業内容の理解につながると思われるので、後期からの授業では改善したい。
- 授業参観した講義の板書がどれもきれいだったので、自分もこれからは丁寧に書こうと思った。
- 自分自身が講義を受けてみてわかることは、90分間の集中力継続はかなり困難だということです。従い、今後はかなり抑揚を付けて話すよう心掛けていきたい。
- 今回、参観させて頂いた先生は、お二人とも、講義の仕掛け(配布プリントやパワーポイント)が充実していると感じました。以前は、配布プリントを用意して講義を行なっていましたが、最近は行なっていないので、今後の授業では検討しようと考えています。
- 自分は、アンケートで文字が見にくいといつも指摘され、気を付けているが、説明がたぶん早口になると、文字も小さく、見にくくなっていると思う。
- また、基礎科目では、例題、演習の数をもっと時間をかける必要がある。
- 具体例と抽象論が適度に出し、急がず、学生にイメージーションを湧かせるように語りかけ、学生が考えながら内容に入ってゆけるように解説する。
- 問題の精選を進める。

(情報システム工学科)

- 板書の字はもう少し大きくしたい。そのかわり消す時間が増えてしまうのは問題でもある。できればプロジェクタを黒板からずらして表示できればいいと思う。

- 今回は特にないが、板書の大きさや次への進行の早さなどを注意しようと思った。
- 講義のテキストは抽象的、理論的にまとめ、講義は具体例を通して学生に理解しやすく行うなど、理論と応用のバランスを考えたテキスト構成と講義方法が大変参考になった。
- 演習と講義の単位を連動させた方が学生にとって良いかもしれないと考えた。

先生の授業での実例を交えながらの説明や、紙を使わないウェブベースの資料などは、自分の授業でも積極的に取り入れたいと思います。先生の丁寧な資料や説明は真似をしようとしても、なかなか出来ないように思えます。この辺は精進あるのみですね。

- 要所要所で、学生の目を見て話すこと。私の授業は板書量が多くて難しいところもありますが。
- 理論的な講義に関しては、思考の流れを説明することが重要だと考えているので、プロジェクトによる講義はあまり適切でないと考えていましたが、タブレットPCを使った方法論や、配付資料の工夫により、別のスタイルを構築できることに感心させられました。このようなスタイルであれば、自分の講義の1スタイルとして導入して見る価値があると思いました。
- 文字の大きさや内容など、少ない文字でも効果的な板書できるのではないかと感じた。自身の授業でも努力しようと思う。
- 受講者の日常生活に関連した話題も積極的に取り入れたい
- 話のテンポや、学生の興味の引き方が素晴らしい先生がいらしたので、参考にして改善してみようと思いました。
- 参観の有無に関わらず改善しようと思う点は常にいくつかあるが、他のスタイルを見せてもらうこと自体は刺激になる。
- 授業中に演習問題を解かせる形式が多くとられている。知識の定着のために有効な方法と思われる。
- 間の取り方、学生の名前の覚えかたなど。
- 学生のプライドを傷つけないことにもっと配慮してみようと思います。
- 以下の点について、これまでも努力をしてきましたが、一層の努力を続けたいと思っています。
- 講義資料に記載する練習問題により講義内容の深い理解へと導くと共に、学習上の次の課題を学生さん自身で考え出すような工夫。
- 授業対象を理解させるためのアイデアを自然な形で学生さんに示す。
- 大事な点は何度も繰り返すなどして、大事だというシグナルを伝える。
- 他の先生よりも講義の配布資料の準備が十分でないと感じた。配布資料作成に現在よりも多くの時間を費やし、学生が理解し易い資料を作成していく予定である。
- 分かり易く学生が集中力を保てるような話し方が重要であると改めて実感したため、今後の授業で改善していきたい。
- 一方向的な講義にならないように、毎回の授業ごとに学生の理解度をチェックできるようなアンケートを実施したいと思った。
- 授業内における学生への質疑応答の回数を増やすと共に、なるべく多くの学生に質問するような工夫をしていく予定である。
- 講義の最初に本日扱う内容の位置づけを明確にすることで、学生の興味を引き付けることが可能になると感じたので今後改善していきたい。特に具体例を挙げて学生に示すことが興味を引き付けるために重要だと思う。
- 黒板を使用した講義とパワーポイントを使用した講義との、どちらの方式が学生の理解にとって良いのか、他の先生方の意見も参考にして今後検討していきたいと思う。

(応用化学科)

- 授業中に学生の注意を喚起する工夫。現在は、指名して回答させる、教科書を読ませるなどしているが、手段は多く持つ方が効果的であると思われるため。
- 板書を丁寧にするように、心がけること。
- 可能な限り、ゆっくりと話すこと。
- 専門家(慣れた者)の観点から、「当然理解している。簡単な内容。」と見ながちな点に注意する。
- 左右の黒板を使用しないこと(教室の左右端は暗く、黒板が見にくい)。
- 最初に当日の内容の箇条書きをする。
- 昨年度もそうでしたが、低学年ほど授業中の私語、教室への頻繁な出入りや携帯 電話の使用などが目立ちます。教室外に頻繁に学生が出ることの一つの原因は、携帯にメールあるいは着信があり、その返信のためであるらしいことを今回参観していて気がつきました。3年生以上ではあまりひどくないようですが、2年生でもかなり目に余るという状態は放置できない気がします。私の授業でも100人ぐらいの大人数の場合かなり目立ちます。そのつど注意していると頻繁に授業を中断しなくてはならないので、あまりにひどいとき以外は見逃していましたが、今後は厳しく注意すべきかと考えています。
- 化学全体の中での位置づけを常に意識し、学生も、今講義を受けている内容が化学のどの辺に位置しているのか、分かるようにしないといけないと感じました。また、当然のことですが、学生に「何故」という疑問が湧いてくるように、そしてその疑問に答えるような講義にしないといけないと感じました。さらに、今まで学んできた化学の講義との関連があれば、出来るだけ以前学んだ分野の「考え方」がこの分野にどう生かされているか、または、以前学んだ分野の「結果」がこの分野にどう取り入れられているか、という観点を忘れないようにしないといけないのを実感した次第です。
- 結晶構造のように、精密に描かないと説明が難しく、かといって、板書するには時間がかかりすぎる場合は、プロジェクタの活用も考えた方が良く感じた。一方、余りこれに頼りすぎると、話が次々に進み、学生のメモを取る時間確保が出来なくなり、理解出来るスピードを越えてしまう可能性があることも考えておかないといけない。いずれにしろ、試みてみたい。
- 自分の講義は、板書を書いたり、消したりするスピードが早すぎるのではないかと思いましたが、一回の講義の講義内容が盛り沢山なので、現在のペースを抑えることが難しく、考えるところです。
- 新任のため、まだ講義を担当していないが、学生の理解度と授業の進行速度の折衝が難しいことを改めて感じた。なるべく話の焦点を絞り、少しでも学生の印象に残る講義を行うことができればと思った。
- 板書の方法について、見やすさを意識していく。

(機能材料工学科)

- 板書の字をできるだけ丁寧に且つ大きく書くことを心がけたい。私の場合、字が汚いので。
- 今回参観した講義を聴いて、自分の講義は少し進め方が早いのかなと感じました。今時の学生さんにはもう少しゆとりをもって講義した方が良くはないかと反省しました。また、黒と青のマーカーの違いが教室の後ろから見てるとよくわからないことに気付きました。なるべく強調したい部分は赤のマーカーを使うように心がけたいと思います。
- 若手教員の熱意と努力を参考に、マンネリ化している授業の改善を進める必要がある。しかし何より個々の学生と触れ合うために十分な時間が欲しい。
- 講義中、学生が自発的に手を動かさざるを得ないシステムを作らない限りは、意味がない、ということを実感しました。もちろん、落ちる人間は落ちる、通る人間は通る、ということであればどんな講義形式・システムでも構わないと言ったら構わないのですが、いかんせん、義務教育でもないにも関わらず、

留年させたら問題だ、という論理がまかり通る昨今の情勢からすると、上記のようなシステムを整備しなければいけないと思いました。ただし、この整備は、かなりの労力が割かれることになるのは間違いないです。自身の講義ではそれを遂行しているからです。毎回、成績に直結する試験を実行し、全ての答えはJABEE資料として残しています。これは大変な手間です。システム作りについては、まだまだ考えなければなりません。

- 特にありません
- 以下の改善点に気づきました。・記述の正確さを心がける。・具体例を用いた説明を行う。
- 担当している講義の中に、より多くの情報を伝えるために、やや速度を持って講義している講義(高学年向き)もあるが、「速度と理解度」のトレードオフを緩和するために、テキストの他に、有効な資料を作成することは考えられる。
- 講義の内容によってうまくスライドを使い分ける必要があることがわかりました。また、学生のノートの確認(課題の提出も含め)きめの細かい指導が大学においても求められていることがわかりました。私自身もこれから学部の講義を担当させていただくにあたって、その講義のポイントと課題を明確にして、ひとつの講義の中で何を伝えるべきかを常に意識した講義にしたいと思います。
- 受講生とインタラクティブな関係をもって展開している授業があれば参考にしたいと思います。

(建設工学科)

- 教科書のまるまるPDF化は、合理的な準備方法だと思った。ぜひ参考にした。自分の授業では、一人でカバーしている範囲が広いので、板書時間を節約している状況ではある(本心は、講義数も担当教員数も増やすべきと考える)が、黒板とプロジェクトの併用の仕方を工夫したいと思った。
- ホワイトボードの下のほう(ぎりぎり)までは使わない。後ろから見えづらいため。
- 理論の説明だけでなく、それから説明できる実現象を紹介して、学生が興味を持つように工夫しようと思います。
- 板書の仕方が大事であることに気づいた。教室野椅子に座って黒板を見るので、下の方は見にくく、マーカーの色が薄いと見にくい、ときどき色を変えると見易い等自分の講義でも気をつけるべきであると思った。
- 講義内容に関連する実例等を写真とかで見せるのは興味をそそってよいと思った。
- 教員が前であまり動き回るのはよくないということに気づいた。
- 一方的に話すより、時々学生に質問する等の方が学生もただ聞いているだけというよりよいと思う。
- 講義室の冷房温度は教員が気をつけて低く設定しすぎないようにすることが必要。
- 参観の教員の出入りが講義の邪魔になると思った。
- レポート課題であっても丁寧に説明することを心がける。
- 人数が多い講義ですと、なかなか学生全てに目が行き届かないのですが、教室の後ろに座って聴講してみて、なるべく学生の注意をひきつける努力が必要だと感じました。
- 先生方がいろいろ工夫されているのを見させていただき、参考になりました。
- 学生の理解を助けるような工夫を、板書や資料の説明に注意する必要性を感じた。
- 今回参観した講義はいずれも力学系科目であったが、板書する際に図を丁寧に描くこと、記号の正確さに配慮すること、力の向き(正負)の一貫性を確保すること、といった点の重要性を感じた。自分の担当講義でもこれらの点にさらに配慮していきたい。
- パワーポイントによる講義は、機材の光量やブラインドの状態によって、見やすさにかなり差が生じると

感じられた(特に後方座席)。パワーポイントを使用する際には注意する必要がある。

- 自分の経験を踏まえた講義内容にすると説得力があると感じた。できるだけ取り入れてみようと思う。
- 出欠確認を兼ねて、たまには質問票を用いてみたいと思いました。
- 板書、プロジェクタの活用法について改善すべき点の多いことを知った。
- 教員が何も言わずとも、学生が教室の最前列から詰めて座るような雰囲気作り。
- 適切な量の資料配付と板書との関係。
- 重要事項の説明について、いかに学生にノートをとらせるかの工夫。
- 授業のメリハリ。
- 板書の字の大きさと講義のスピードに留意したい。
- もっと字や図をきれいに書く必要があると思った。
- 板書について、図や字を大きく書くと後ろから見やすい。しかし書ける内容が少なくなってしまう。込み入った図を書いて説明する場合には、なかなか両立は難しいと思った。
- 遅刻者への対応をどうするかが悩ましい。
- 自分がよいと思っているよりも、字を大きく書き、ゆっくりと話す
- 講義内で扱う関連項目の復習は欠かせない
- 演習の解説をもっと丁寧に時間をかけて行う必要があると感じた。
- 参観した講義では、講義のイントロダクションとして写真の紹介などが交えられていた。学生からすれば興味も膨らむだろうし、これから勉強することが何に役に立つのかを、漠然とした形ではあれ、認識して講義を受けることになるだろう。特に学部生に対しては、彼らが興味を持つきっかけとなる題材を講義の中で積極的に提供していくべきだろうと感じた。
- 宿題の解説を板書しながら行う方法は、参考になった。私の講義でも、時々取り入れてみたいと思う。(私の講義では、あらかじめ作成した解答をプロジェクタで投影し解説を行い、授業終了後メールで学生に配信しているが、板書しながらの解説は、その場で問題を解いて見せているようで、臨場感があり、一定の効果があるものと思われる。)
- リラックスした話しぶりは、参考になった。
- 珍しい外国の風景写真を教材に使っていたのも参考になった。
- 板書は以外と見にくくクリアに書く様に心がけたいと思いました。
- プロジェクタと板書の併用は、うまく使えば学生の理解を促進させる可能性があることを再確認できました。また、特に縦長の教室では、板書の文字の大きさは、相当大きくしないと読みにくいことがわかりました。

(環境共生学科)

- 本年後期に、新たに数学の講義を担当することになるため、他の先生方がどのように授業を組み立てておられるのか、ぜひとも参観する必要がある。教科書を用いる場合、用いない場合、それぞれ必要な(と思われる)ポイントをしばった分かり易い講義をしておられ、たいへん参考になった。講義の準備に(少なくとも最初の年は)さぞ時間をかけておられることと推測され、腹を据えてやるしかないなと思いました。

【質問2 に対する全回答】

(機械工学科)

- 授業を参観して自分とは異なる方法を取り入れることができるなど、参考になることも多い。今後も続けることが望ましい。
- 講義と実習系とが含まれているが、実習系の参観は難しく感じました。実習系の授業参観では、実験・実習を直接担当されている先生方が中心となって意見交換の場としたほうがいいように感じました。
- 限られた時間の参観でしたが、参加教員に教授・助教の数が少なかったのが、気になりました。
- 今後も実施するべきである。

(電気電子システム工学科)

- 授業参観期間が2週間に延長されたので、多くの授業を参観することができた。授業内容は同じでも、講義の方法により学生の理解度は大きく異なるであろうことが授業参観からわかったので、もう少し多くの教員が授業参観に参加してほしい。
- 大変有意義なイベントだと思いますので、これからも継続して下さい。ただ、授業評価の高かった講義と普通の講義では、特段の差異は見当たらなかった。科目によって評価の上がりやすい科目と上がりにくい科目があるのだと推察される。
- 一つ気になったのが、公開する授業の多い学科と少ない学科があることです。FD 委員会から公開の少ない学科が無くなるよう働きかけて頂きたいと思います。
- 参観する教員数は、少ない印象であった。昨年、後期の時は、もっと多い教員が参観していたが、自分が参観した講義では、他には1名を確認したのみであった。
- 総合研究棟の講義室は、後から見ても黒板が見やすいと感じた。

(情報システム工学科)

- 参考になった。
- 講義の方法や内容に関しても参考になることはあったが、後ろに座って学生の聴講の様子を見る機会などないので、その面でも有益であった。自分が講義をしていると、あまり後ろの方の学生の様子などわからなかったが、後ろから見ると、講義への取り組みの態度などがよくわかった。それに対してどうすればよいかはわからないが、今後の講義の際に気に留めておいて、改善法を考えていきたい。
- 授業参観とは関係ないが、プロジェクトのスクリーンを下ろすと黒板が使えなくなる教室が多いが、プロジェクトを使っているときに、スクリーンの横に局所的に照明をしたホワイトボードがあればよいと思う。
- 大変結構かと思います。科目、期間を限定する必要はなく、全学科全科目を対象とし、学期を通して5本程度参観する、といったところが妥当ではないでしょうか。その際、他学科の授業も2本程度参観することを条件に加えるとよいでしょう。参観する側にも負荷はかかりますが、参観する側される側、ひいては、工学部全体の教育アクティビティの質の向上を考えた場合、補って余りあるメリットがあるように思えます。
- 今回は2週に渡って参観日があってよかったと思います。
- 今後は他学科の授業なども参考にしたいと思う。
- 限られた期間に「2つの授業参観」という縛りは、FD実施上、やむをえない方策かもしれないが、参観する側には(も)依然としてやや負担感が残る。
- 期限をきるのは出来ればない方がよいと思います。また、他学科の講義で開放されていないものも聞いてみたいです。なぜ学科からの一部の科目だけが開放されているのかという理由もぜひ教えてください。

- sankan-a.doc の「講義室」欄は不要では？
- 参観は参考になることが多く、よい機会を得られました。ありがとうございます。
- 他の先生方の授業を拝聴することは自分の授業改善のために非常に役に立ったと感じている。他の先生方の講義では色々な工夫がなされていることが分かり、自分の授業スタイルに反省すべき点を数多く見つけることができた。特に配布資料の準備不足や学生の理解度に対する逐次調査という点においては、今後改善が必要であると痛感している。このように授業参観は自分の講義内容の改善への重要な機会であり、FD 活動の一環として今後も継続して行うべきである。授業参観の実施要綱資料にも書かれている通り、我々教員は授業を開始するにあたって特別な教育を受けたわけではなく、常に教育の質を向上させるために努力していくことは、教員の重要な仕事であると思う。さらに学力低下が叫ばれて久しいが、現在の学生の学力・理解度を常に把握することも非常に重要であり、平日頃から教員間での学生に対する情報交換が必要であると感じる。

(応用化学科)

- 授業参観することは、自らの講義のために役立つことが多いが、何回か実施した後に状況改善の対策をするべきである。講義環境の問題点として、部屋後方3分の1の学生の私語、入退席、携帯、音楽プレイヤーがひどく目立つ。教員が後ろに来て、隠そうともしないことから、罪悪感はないと言って良い。授業内容以前に、学生のモラルを向上させる試みがない限り、講義の改善は望めないのではないか？
- 昨年度も述べましたが、授業を参観して、その感想を当該教員に個別に伝えるだけでは、学生教育全体の大きな改善にはつながらないように感じます。一つの授業をサンプルにするなどして、学部あるいは学部全体の教育方針を授業の進め方から議論する必要があると思います。
- たまには良いことだと思います。
- 私も含め皆さん多忙なので余り大声では言えませんが、学科全体が集まり講義の後に討論しても良いくらいだと思います。
- たまには、このような企画があっても良いと思います。教官によっては学生のレベルのとらえ方に差があるのが分かります。
- 他の教員の方がどのように講義を進めていらっしゃるのかは、非常に参考になった。特に自分の専門分野に近い講義は参考にしやすいので、今後可能であれば、学部の垣根を越えた授業参観の実施を希望する。
- 他の先生方の講義を参観することは、参観する側、される側双方にとって刺激になると思われ、よい試みであると感じた。

(機能材料工学科)

- 他の先生をどうこう言えるほどではないので、自分自身を研鑽していきたい。
- 今回は2週間の期間を設けていただきましたが、学生実験や演習が入っていると大幅に時間を取られてしまい、加えて参観したい講義は自分が担当の講義と時間的に重なっていたりして思うようになりませんでした。(午後に演習、実験を組み込んでいるために通常の講義が午前中に集中しているためだと思いますが…)
- 交響曲は第1楽章から終楽章までを通して聴いて初めて感銘を受けるものである。例えば第2楽章の途中だけ聴いてその曲(または演奏者)の優劣をつける批評家はいない。授業もまたしかりで、細切れの参観でわかる内容には限度があることを改めて実感した。とはいえ板書のしかた、説明のしかた、資料の使い方等々、ごく基本的(外面的)なレベルでは大いに参考になる。若手教員には貴重な機会が

もしれない。また教員同士がFDに努力しているという姿勢は学生にも伝わるので、学生の授業に対する真摯さを高める作用ももたらすように思う。今後もこうした努力を継続すべきであろう。

- 非常勤の教員の講義も参観してみたいと思うものもありますが、見せてもらえず残念です。また、時間割の関係上、参観が不可能な講義が多々あります。自身の講義、研究室ゼミと重なってばかりだからです。特に、金曜日に常勤教員の講義が殆どないので困りました。この時間割編成のお陰で、週休3~4日制状態になる学生も現れます。会議開催のため、金曜は講義をなくしているようですが、会議の内容は、報告事項が多くを占めているように見受けられます。報告事項はメールで流すだけにして、会議の時間/開催頻度を減らして金曜も講義を開講できるようにするべきだと考えます。
- 途中で入ったり出たりするのは気が引けます。
- 授業参観に2週間という期間を取っていますが、聴講可能な講義はかなり限られていました。何らかの改善が必要かと思えます。
- 今回は物理系の講義を2つ聴講させていただいたが、かねてからの印象のとおり、一般的に、物理系の講義は十分に確立され、整然と体系化されている学問領域の性質からテキストに従って淡々と進められる傾向があることの印象を確認した。それは自分自身が担当している講義においても数学・物理色の濃いものはそうなることを感じており、それはそれでよいが、翻って、バイオ系の学問は、近年、「基本部分」は体系化が進んできているが、アドバンスするに従って、数理よりもむしろ個別論理的色彩が高くなる。数理においては普遍的、客観的な“式”が残るが、論理は形では残らず、抽象的概念がその瞬間だけ脳裏をよぎるだけであり、しばらく経つと忘れてしまう。それを書き留めたものは読み返し想起するのに、手間がかかる。この種の訓練は、集中的に相当な量を持って行う必要がある。その訓練をあまり受けるチャンスのない学科の学生にたいしてどのように有効に教育していくかの難しさを再確認し、考察の契機になった。
- 私自身、今年度から講義をさせていただく上で、今回の授業参観は大変参考になりました。講義に対する具体的なイメージがなかなか持ちにくかったのですが、参観することで「伝えるノウハウ」があることを認識できたおかげで、後期の講義の準備に大きな助けとなりました。FDの先生方のご努力に感謝いたします。
- 特定の曜日に講義が集中し、反面、金曜日開講の講義が極端に少なくなっており、授業参観の日程を組む上でも支障があるが、学生にとっても好ましい状況でないはずである。5日間にバランスのとれた講義配置が必要であると思う。

(建設工学科)

- 授業中に菓子を食べている学生がいた(注意しようか迷っているうちに食べるのをやめたが…)。
- 寝ている者が多い。
- 帽子を被ったままの者もいる。
- 授業中、入退室する者もいる。などのことが見られ、いくら講義を改善しても、学生のモラルが低いままでは“暖簾に腕押し”である。
- 教員が授業の途中で抜けてしまうのは、学生の教育上好ましくないように感じます。
- 授業参観は非常に有意義で、参考になるが、対象講義と期間が短く、時間帯が合わないこともあるので、参観の期間を2週間くらいに延ばしてほしい。
- 講義のノートは教員が用意して、学生に配布し、学生は講義を聴講するという形式がいいのか、教員が板書して説明したものを学生が各自ノートを作成するのがいいのか、一度意見交換したものです。
- 他の先生方の講義の工夫を見ることができ参考になった。

- 参観の対象とする講義数をもう少し増やしてもよいのではないか。限られた科目数では、自分のスケジュールと調整をつけるのが難しいケースもある。ただし、同一講義に対する複数教員の感想を収集することが目的の一つなのであれば話は別であるが。
- 建設工学科の場合、1週間内に設定されていたので、都合がつかずに1科目しか参観できなかった。だからといって期間を延ばしてほしいという意見ではなく、時間の都合がつくときに多くの講義を聴けるようなシステムにしてほしい。期間中に2科目20分以上よりも、数年にわたってでも何科目かをじっくり(1時限)聞くという縛りもあるのではないのでしょうか。無理矢理聞いても何も得るところがなく終わってしまうこともあるかと思います。
- 前回は返答しましたように、授業アンケート評価の高い科目に限って授業参観すればよいと思います。
- 他の先生の授業を参観することは、自分の講義を見直す上で、とても参考になると思います。特に、他学科の授業は、学生の態度も含め、大いに参考にしたいと思いました。
- 今後も続けていく方がよいと思いますが、ルーチンにならないよう、毎年、何らかの工夫をする必要があるかも知れません。
- 頂いた事前資料では、参観のスケジュール一覧が提示されているだけです。どの科目をどのような視点から参観したらよいかという指標(決め手)が一つもありません。個人的には評価の高い講義を拝聴し、今後の参考にしたいと考えています。しかし、その情報は提示されていません。授業評価の総点が極めて高い講義、あるいは過去5年以内にベストティーチャーに選ばれた教員については、そのように記載してもらうわけにはいきませんか。
- 相互授業参観実施により、より良い講義を提供しようとする意識が教員に働くと思われる。この点は良いが、参観側としては1回講義を参観しただけでは感想が述べられないのが本音。
- 参観対象科目・期間を増やしてほしい。
- 自分自身の講義を省みるという意味において、講義参観は非常に良い機会であると思う。これからは継続して行っていただきたい。
- 大変ためになる。受講者の席に身を置くだけで、いろいろと役に立つ教訓がえられるとおもう。
- 普段接することのない他の先生の講義を参観することは、大変刺激になる。
- 他の授業の内容を改めて認識しました。
- 他の授業を参観することは、非常に良い刺激となりました。

(環境共生学科)

- 参観できて自分の講義の改善のための参考にできるのはたいへんありがたく、良いことだと思います。ただ、参観される側は、いかに自信を持って良い講義をしているとしても、その場は楽しいものではない。たとえ業務評価に連動するものでなくても、短時間の参観者に批評されたら参考にもなるが必ず不愉快さがつきまとう。FDの実施に際してそういうマイナス面も伴うことを忘れてはならないと思います。